

ヒントおよび用法



警告

気管内チューブ (ETT) をビデオ喉頭鏡の先端部に誘導する際は、必ずビデオモニター画面ではなく患者の口を見てください。そうしないと、扁桃腺や軟口蓋を傷つける危険性があります。

4ステップの用法

1. **患者の口腔内を見ながら:** ビデオ喉頭鏡ブレードを左手に持ち、咽頭口部正中線に挿入します。
2. **画面を見て:** 喉頭蓋を確認し、次に喉頭鏡ブレードを操作して声門がよく見えるようにします。
3. **患者の口腔内を見ながら:** チューブの先端部をブレードの先端に近い位置まで慎重にガイドします。
4. **画面を見て:** 必要に応じて 静かに回転させたり角度を付けたりして、方向を変えながら気管挿管を完了します。

ブレード挿入に関するヒント

- ブレードを舌の正中線から喉頭蓋まで挿入します。
- GlideScope ビデオ喉頭鏡を使用する気管挿管の展開に必要なつり上げ力は約 0.5~1.5 kg (1.1~3.3 lbs) です。
- 気管内チューブスタイレットを使用することを推奨します。GlideRite® リジッドスタイレットは、大人サイズのブレードの確度に合うように設計されています。展性スタイレットは60~90°の角度で使用できます。
- ETTを挿入しやすくするため、ETTを静かに進ませながらスタイレットを約 5 cm (2 in) 引きます。視野角を減らし声門を下げるために、ブレードを 1 cm (0.4 in) 後退させることが有用な場合があります。



クイックスタート

ビデオボタンおよびスタットを取り付ける

1. 適切なスタット (使い捨てブレード) およびビデオボタンを選択します。
2. ビデオボタンをスタットに挿入し、ビデオボタンが所定の位置にロックされるまでボタンのベースを押します。
3. モニターの右側およびクレードルの後ろ側で、ケーブルの矢印とポートの矢印を合わせ、カチッという音が聞こえるまでケーブルコネクタを挿入します。



システムを準備する

4. モニターの電源スイッチを左に動かします。
5. バッテリーが十分に充電されていることを確認します。緑の電源ライトが点滅、緑の電源ライトが点滅しないはずです。
6. モニターにビデオボタンからの画像が映し出されているか確認します。上部または上端左の隅にスタットの一部分が見えることがあります。



特定のコンポーネントは使用前に消毒される必要があります。詳細な指示については、操作およびメンテナンスマニュアルを参照してください。

